

2012年11月2日
東日本旅客鉄道株式会社

ドイツ鉄道との交流20周年について

JR東日本とドイツ鉄道は、1992年11月に鉄道技術の発展と経営近代化を図ることを目的に、技術開発に関する基本合意書を締結しました。これ以来、両社は技術分野を中心に交流を20年間続けてきました。

これまでの20年間の成果を振り返り、今後も協力関係を継続させ、さらに強化していくことを確認するとともに、20周年を記念する式典を10月25日、東京ステーションホテルにて開催しました。

1. 概要

ドイツ鉄道とJR東日本は、鉄道技術の発展と経営の近代化を図ることを目的とし、1992年11月に技術開発に関する協力協定を締結しました。以来、両社は技術分野を中心に交流を継続してきました。この技術交流は、ドイツと日本で毎年交互に開催され、「車両」「インフラ」「コントロール」などをメインテーマとし、「マーケティング」「駅開発」などにも、交流範囲を拡大してきました。

このたび、この交流が20周年を迎えるにあたり、10月25日に東京ステーションホテルにて記念式典を開催しました。式典にはドイツ鉄道のグルーベ会長兼社長、JR東日本の清野会長、富田社長をはじめとし、この20年間の交流に大きく貢献したドイツ鉄道元役員のハイニッシュ氏、JR東日本の松田顧問、大塚相談役、石田監査役などが出席し、これまでの交流の成果などについて振り返るとともに、今後の交流・協力について意見交換を行いました。そして、今後も両社がともに世界の鉄道をリードしていくために、さまざまな分野において協力していくことを誓いました。

2. 今後について

今後の交流について、下記3点について確認しました。

- (1) 技術分野を中心に交流を継続し、協力しながら世界の鉄道をリードしていきます。
- (2) さらなるテーマの拡大や国際調達など、新たな協力についての検討を始めていきます。
- (3) 上記(1)(2)を進めるために人事交流をさらに進めていきます。



グルーベ会長・清野会長



記念式典の様